

# まほうのおべんとう

谷口 茉凜乃

わたしは、じどうクラブにかよっています。なつやすみは、あさはやくからすごしています。

わたしのいちばんのたのしみは、おべんとうです。おひるになると「いただきます。」といって、おべんとうのふたをあけます。ふたをあけたら、おともだちが

「だれのおべんとうがおいしそう？」

と、いつもいいます。みんなで、おべんとうをゆびさします。わたしもなんとか、いちばんになりました。

だけどわたしは、ぜんぶおいしそうにおもう。みんなのおかあさんがつくったおべんとうだからいちばんをきめたくなかった。

だからわたしは、

「じぶんのが、いちばん。」と、いいました。そしたら、ほかのおともだちも、

「わたしのが、いちばん」

「じぶんの」

「じぶんのだよ」

と、つきつきにいました。わたしは、すこしうれしくなりました。

わたしは、おかあさんのつくるおべんとうが、だいすきです。おべんとうをたべるとき、おかあさんのわらったかおをおもいだします。おかあさんも、おしごとをがんばっているかなと、おかあさんをおもいだします。

だから、わたしもおべんとうをたべて、げんきになります。おひるからも、じどうクラブをがんばろうと、ちからがわいてきます。

そんなわたしのころをげんきにしてくれる、おべんとうです。

おかあさん、まいにちおしごとをしているのに、おべんとうつくってくれてありがとう。

おかあさんのつくる、おべんとうは、げんきのでるまほうが、はいったおべんとうです。